

高石市環境・廃棄物リサイクルフェア



2月10日に新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を徹底し、環境・廃棄物リサイクルフェアを開催

「環境・廃棄物リサイクルフェア」を終えて 未来の子どもたちへ豊かな環境を引き継ぐために

「海洋プラスチックごみ問題から持続可能な社会を考える」をテーマに羽衣学園高等学校 SDGs チームの皆さん、三菱UFJ リサーチ & コンサルティング環境・エネルギーユニット副主任研究員の松岡夏子さん、阪口市長によるリモートディスカッションの内容をお伝えします。

問合せ 生活環境課 ☎(275)6266



市役所や警察署に設置されているラッピングされたごみ箱

松岡さん…素晴らしい取り組みです。いろんな発信方法がある中で、ごみを捨てる時に必ず人が使う物で、あまり広告媒体として使われてこなかったごみ箱に目をつけ、メッセージを発信したことはすごいことだと思います。

ごみ問題を知ることが環境を守る入口に
SDGs チーム…私たちは、プラスチックごみを飲み込んで苦しんでいるカメのニュースを見て、ごみ箱ラッピングを考えました。街や駅のごみ箱に環境問題を連想させるラッピングをすることで、捨てる人が分別の意識を持ち、環境問題に興味を持ってもらえると思っただけです。

SDGs(持続可能な開発目標)

2015年9月に国連サミットで世界のリーダーによって決められた2030年までの「国際社会共通の目標」です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っています。羽衣学園SDGsチームは、「ごみ箱ラッピングによる問題提起」で第1回SDGs Quest みらい甲子園でアイデア賞を受賞し、第6回全国ユース環境活動発表大会近畿地方大会で優秀賞を受賞されました。





■ 森里川海プロジェクトとは？

SDGs（持続可能な開発目標）を暮らしの中で実践するために、地域循環共生圏の考え方を軸に環境省で取り組まれているプロジェクト。国民全体で「森里川海を豊かに保ち、その恵みを引き出すこと」「一人一人が、森里川海の恵みを支える社会をつくること」を目的としています。

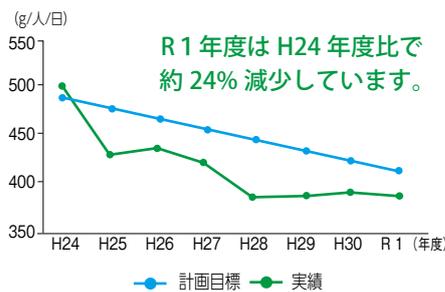
■ 地域循環共生圏とは？

各地域が美しい自然景観等の地域資源を最大限活用しながら自立・分散型の社会を形成しつつ、地域の特性に応じて資源を補完し支え合うことにより、地域の活力が最大限に発揮されることをめざす考え方です。



高石市には海があります。高師浜の砂浜の保全や稚魚の放流を行うなど自然環境の保護に取り組んでいます。

市民1人1日当たりの家庭ごみ排出量



ごみの分別が
再利用に繋がる

阪口市長…高石市も未来の自然環境を守っていくために、ごみの減量に取り組んでいます。平成25年度に一定量以上のごみを出す方は有料となる制度（一部従量制）を導入し、効果が出ています。

阪口市長…他にも森里川海プロジェクトへの賛同や不法投棄防止対策を行っており、今後はリサイクルに関して、より一層推進していきます。かなければならないと思っています。そこで、松岡さんのお考えをお聞かせください。

松岡さん…徳島県の上勝町では「ゼロ・ウェイスト（ごみゼロ）宣言」を行い、ごみを燃やさずできるだけリサイクルする方針をとっています。町の中心部にあるごみステーションで、45種類にごみを分別するようにしたこと、リサイクルがしやすくなりました。その結果、8割のごみが再利用できたのです。

ゼロをめざすことが
豊かな環境を引き継ぐ鍵に

松岡さん…ごみをゼロにする目標を掲げた時、「非現実的だ」「責任は誰が取るんですか」と言われました。しかし、それが本質ではなく、達成に向けて課題を見つけ、みんなで挑戦していくことに意味があると思います。上勝町もまだ達成はできていませんが、今もゼロをめざして挑戦し続けています。

SDGs チーム…大変勉強になりました。次世代に豊かな環境を残すために、私たちもSDGsの目標達成をめざして活動を続けていきます。

高石市は ゼロカーボンシティ をめざします！

令和3年第1回高石市議会定例会において阪口市長は2050年までに二酸化炭素の実質排出ゼロをめざす「ゼロカーボンシティ」を宣言しました。



上勝町が表明した「ゼロ・ウェイスト宣言」

「ゼロ・ウェイスト」とは、無駄や浪費をなくして、ごみを出さないことを意味します。上勝町では新たに2030年までの重点目標を掲げています。

1. ゼロ・ウェイストで、私たちの暮らしを豊かにします。
2. 町でできるあらゆる実験やチャレンジを行い、ごみになるものをゼロにします。
3. ゼロ・ウェイストや環境問題について学べる仕組みをつくり、新しい時代のリーダーを輩出します。